2016.11.27

晴れときどき曇り

「気象コンパス」主宰
古川武彦

四度の滝

大子町の袋田の滝を訪れた。華厳の滝（栃木県）、那智の滝（和歌山県）と並ぶ日本の三大名瀑。昨年３月、新たに国の名勝に指定された。落差１２０㍍、幅73㍍、滝が４段で流れ落ちることから「四度の滝」の別称がある。平安時代の西行法師は「花もみち　経緯にして　山姫の　錦織出す　袋田の瀧」と詠み、四季に１度ずつ訪れなければ、真の風趣は味わえないと絶賛したという。滝を囲む山肌、辺りの風や空気が春夏秋冬で異なるからだろう。

間もなく12月。朝夕を中心に寒さが一段と厳しくなる。袋田の滝も冬期には結氷し、今年は１月下旬、昨年は中旬に７割ほどが凍った。しかし全面結氷は近年見られないという。地球温暖化の影響は滝にも及んでいるのだろうか。「アメダス」で大子の過去を調べると、日最低気温の月平均（平年値）は12月からマイナスとなり、１月は－５．５度、２月は－４．７度と冷え込む。

スパコンを利用した最新の１カ月予報（11月25日～12月24日）によれば、関東地方の気温は平年値を基準とした「低い、並、高い」の確率（％）が「30、30、40」で、やや暖冬傾向だ。滝は金、土、日、祝日と年末年始、水墨画のイメージでライトアップされる。今冬はどんな表情を見せてくれるだろうか。

（元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住）

2016.12.4

晴れときどき曇り

「気象コンパス」主宰
古川武彦

松飾り

今年も残り１カ月足らず。正月には職場や家庭で松飾りが見られる。少なくはなったが、今も残る正月の風景だ。

雨をもたらす天気変化の晴れ間を縫って、鹿嶋市のカシマサッカースタジアムの近隣では背丈ほどに成長した松飾り用の松林で、刈り取りが急ピッチで進められている。機械式のカッターで伐採後、女性たちが１本ずつ丁寧に小枝を切り取り、枝ぶりなどで等級に分け、最後に束ねる＝写真。浅い水槽に浸して出荷に備える。かつて山から切り出していたが、戦後、波崎や鹿嶋の周辺で露地栽培が始まったという。稲のように種から苗が育てられ、田植えのように移植され、４年で飾り松に成長するそうだ。

11月24日に季節はずれの初雪に見舞われた。水戸では昨年12月26日より32日早い。古河で約４㌢、水戸では１㌢、沿岸部の鹿嶋周辺では雨。地域差があった。

関東地方で雪が降るのは、いわゆる「西高東低」の縦じま模様の冬型の場合ではなく、むしろ冬型が緩んで台湾付近で発生した低気圧が本州南岸を足早に東進する「南岸低気圧」の場合だ。予報者の間では「台湾坊主」とも呼ばれる。北を進むと南よりの風で雨、南を進むと北よりの風で雪と、予報が難しい。天気図の片隅に低気圧が現われたら要注意だ。

（元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住）